


掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第28号—



貯蔵穴の中から、足のある土偶がみつかりました（は土偶が出土した場所）

ちょぞうけつ どぐう まつがさき 貯蔵穴から土偶、発見！～松ヶ崎遺跡～



土偶（長7.5cm、幅4.5cm、厚1.5cm）
表面に列点で模様が施されているのが特徴です。
残念ながら腕は欠けてしまっています。

松ヶ崎遺跡は、八戸市内最大規模の縄文時代の集落跡で、令和元年度から遺跡の中央部分の発掘調査を行い、これまでに^{たてあな}竪穴建物跡や貯蔵穴（フラスコ状土坑）など、縄文時代中期を中心に多くの遺構がみつかっています。

今回の調査では、貯蔵穴の中から、縄文時代中期後半（約4,500年前）の土器とともに、足のある土偶がみつかりました。縄文時代中期の土偶は、「^{ばんじょう}板状土偶」と呼ばれる十字形のものが多いですが、それと比べると、この土偶はとても珍しい形です。

八戸市内ではこの時期の土偶の出土例は少なく、貴重な発見となりました。（次頁へ続く）

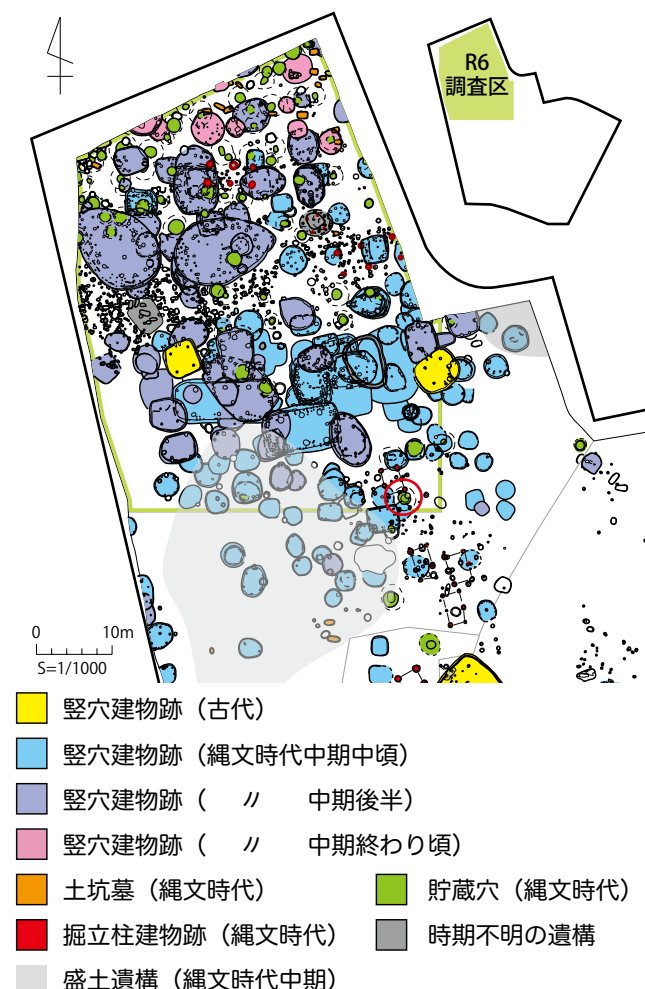
現在調査中の第 11 地点からは、縄文時代中期を中心とする多数の遺構がみつかりました。

①縄文時代中期の竪穴建物跡を多数発見！

令和 6 年度の調査では、竪穴建物跡が 100 棟以上みつかりました。一部では元々の地面が見えないほど重なっており、長期間にわたってこの場所で生活していたことが窺^{うかが}えます。建物の時期は中期中頃から終わり頃までであり、中期中頃から後半のものがほとんどです。

竪穴建物跡の中には、建物を拡張した痕跡のあるものもあります。SI103B 竪穴建物跡では、拡張あるいは建替えが 7 回以上行われた痕跡があり、はじめは直径約 4m の楕円形の建物が拡張されて少しずつ大きくなり、最終的に長辺約 13m 以上の長方形の建物になったことが調査によって明らかになりました。

建物の床から炭化した木材（炭化材）や、床



松ヶ崎遺跡第 11 地点遺構配置図
赤丸が、土偶（巻頭）の出土した貯蔵穴の場所です。

が焼けて赤くなった焼土などがみつかる、火事などで焼失した痕跡のある竪穴建物跡もいくつか確認できました。SI205 竪穴建物跡では、焼土や炭化材のほかに、炭化したクリがまとまってみつかりました。クリはいずれも乾燥した状態でみつかったことから、貯蔵していたものが建物の焼失とともに焼けた可能性があります。

②貯蔵穴（フラスコ状土坑）が密集！

調査区の北側では、貯蔵穴として使われたとされるフラスコ状土坑が 70 基以上みつかり、何基も重なっているものもありました。堆積した土の中からは、土器などの遺物や炭、骨などがまとまってみつかったものもあります。貯蔵穴として使われなくなったあとに、食べかすなどを廃棄したと考えられます。土器とともに土偶が出土したものもありました（巻頭参照）。

令和 7 年度も継続して調査を行います。今後の調査成果にご期待ください。（宇庭 瑞穂）



炭化クリ検出状況（SI205 竪穴建物跡）
SI205 竪穴建物跡では、炉跡に近いところから炭化したクリが直径約 20cm 程の範囲で 5kg 分みつかりました。



SI103B 竪穴建物跡（赤枠、北から）
この竪穴建物跡では柱穴や溝跡が複数みつかるなど、建物を複数回拡張した痕跡がみられました。
この周辺では、竪穴建物跡が何棟も重なっていました。

調査成果をまとめた報告書が完成～八戸城跡～

八戸城跡は、八戸市内丸に所在する江戸時代の城跡を中心とする遺跡で、本丸（現在の三八城神社・三八城公園・八戸市公会堂）と二の丸（八戸市庁・南部会館・竈神社等）から構成されています。寛永6年（1629）、盛岡藩の代官所として築城されたと伝えられ、寛文4年（1664）に八戸藩が成立した際に、藩主の居城・藩庁と定められました。その後、明治4年（1871）の廃藩置県によって廃城となり、取り壊されるまで、八戸藩二万石の居城として使用されました。

八戸市では JR 本八戸駅から八戸市庁前を通り中心街へ至る道路の整備工事（県道沼館三日町線道路改築事業）に伴い、平成27年（2015）から工事に先立つ発掘調査を継続して実施しています。

この度、平成27・28年、令和2・3年に実施した発掘調査の成果をまとめた発掘調査報告書を刊行しました。ここでは、主に近世の調査成果について紹介します。

本八戸駅交差点付近から東へ約80mに位置する調査区では、八戸城二の丸の北から南にかけて外周する堀の一部を調査し、検出全長は東西約60m、上端から底面までの深さは約3mを測ります。堀の法面には湧水を防ぐために粘土を貼り付け形を整えていること、堀底には土留めのため杭と杭の間に横方向の枝を組んだ柵を構築していることが明らかとなりました。また、江戸時代の陶磁器と一緒に、黒漆塗の椀や曲物、柵を構成する杭や板などの木製品が多量に出土しました。

竈神社から野々口整形外科の西側にあたる調査区でも堀がみつき、検出全長は南北約20mを測ります。こちらは八戸城の本丸と二の丸を区切る「内堀」の一部であることがわかりました。

沼館三日町線道路改築事業に伴う発掘調査は来年度以降も予定されていますので、今後の調査成果にもご期待ください。

（横山 寛剛）



八戸城跡調査区位置図



八戸城二の丸の北側の堀がみつかった調査区



「内堀」がみつかった調査区



八戸市埋蔵文化財調査報告書
第188集『八戸城跡XI』

全国の図書館などに配布しています

足掛け 6 年の調査成果を刊行～八戸北インター第 2 工業団地～

八戸北インター第 2 工業団地は、八戸市庁から北西に約 4km の、馬淵川と五戸川に挟まれた丘陵（高館台地）で現在造成中の工業団地です。

八戸市では、平成 30 年度から開発予定地で遺構の有無を確認する試掘調査に着手し、遺構が見つかった 6 遺跡の約 38,000 m²の範囲を令和 5 年度まで本発掘調査を行いました。令和 6 年度は、調査成果をまとめた発掘調査報告書を刊行しました。ここでは、調査成果のうち主だったものをご紹介します。

①縄文時代前期の集落跡を発見

平 (2) 遺跡では、縄文時代前期前半の^{たいら}堅穴建物跡が 4 棟見つかりました。堅穴建物は直径 3～4m の円形または楕円形で、建物の中に^{たてあな}炉を設けないものでした。近くで見つかった土器に付着していた焦げを年代測定したところ、約 6,600～6,800 年前のものであることがわかりました。平 (2) 遺跡のまわりには同じ時期の遺

跡があり、縄文時代前期前半の高館台地には人びとが集まって暮らしていたとみられます。

②奈良時代の集落跡を発見

工業団地の南側には、馬淵川に向かって流れる沢があり、この水源を取り囲むように奈良時代の堅穴建物跡が 29 棟見つかりました。堅穴建物跡は一辺 8m 台のものから一辺 2m 台のものまであり、最も大きな建物は他の建物よりも高く見晴らしの良い場所に建てられていたことから、有力者の住まいだった可能性があります。

③平安時代の炭窯を発見

平 (2) 遺跡では、炭窯跡が 4 基見つかりました。炭窯は長さ 4～5m、幅 2m ほどの細長い長方形で、埋め土には細かい炭のかけらが大量に混じっていました。見つかった炭を科学的に分析したところ、平安時代の終わりごろにコナラの木を焼いて作られた炭であることがわかりました。
(上ノ山 拓己)



八戸北インター第 2 工業団地（矢印は調査した遺跡）
奥（北）に北インター工業団地が見えます。



奈良時代の集落跡の空撮（矢印は奈良時代の遺構）
大きな矢印が大型建物跡です。
真ん中の林を沢が流れています。



縄文時代前期の集落跡の空撮（矢印は奈良時代の遺構）
大型の円形の遺構が堅穴建物跡です。



平安時代の炭窯（平 (2) 遺跡）
手前中央に張り出しがあります

令和 6 年度八戸市遺跡調査報告会を開催しました

令和 6 年 11 月 9 日（土）に、八戸市での遺跡の発掘調査の成果を発表する遺跡調査報告会を開催し、市内外から 60 名のご参加がありました。

遺跡報告会では、江戸時代の八戸城跡^{はちのへじょう}、平安時代の熊野堂遺跡^{くまのどう}、縄文時代の松ヶ崎遺跡^{まつがさき}の、3 遺跡での発掘調査成果を報告しました。

また特別報告として、工藤 司氏^{つかさ}（三沢市教育委員会）から、小川原湖南岸の縄文時代の集落跡である平畑（3）遺跡^{ひらはた}の発掘調査成果についてご報告いただきました。

遺物展示会場では、平畑（3）遺跡の縄文土器や土師器^{はじき}、松ヶ崎遺跡の縄文土器や石器、熊野堂遺跡の土師器や石帯の石製飾具^{せきたい かざりぐ}などを展示しました。

過去の報告会資料は、当館ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。（宇庭 瑞穂）



会場のようす
（上段：遺物展示会場 下段：報告会場）

令和 6 年度是川遺跡出土品保存修理事業

八戸市では、貴重な文化財を良い状態で保存し活用するため、国庫補助金の交付を受けて、重要文化財「青森県是川遺跡出土品」の保存修理事業を進めています。平成 23 年度に重要文化財に追加指定された「青森県是川遺跡出土品」330 点の中には、欠損部分や脆弱な部分^{ぜいじやく}があり、修理や補強を必要とするものがあります。特に漆製品や木製品は有機質で、状態が変化しやすいため、経過観察と適切な保存修理を継続的に行う必要があります。

令和 6 年度は、漆製品 6 点（弓 5 点、飾り太刀 1 点）の保存修理と保存台作成を行いました。修理では、細部の観察や X 線撮影により状態を確認し、クリーニングを施した後に、それぞれの材質や状態に応じた修理が行われます。

保存修理を行うことによって文化財は安定した状態を保ち、本来の美しい姿がよみがえります。今後も貴重な文化財を未来に伝え残していくために、保存修理を進めていきます。（横山 寛剛）



飾り太刀（長さ 67cm）



漆塗り弓（長さ 64cm）



漆塗り弓（左上長さ 9cm）
資料を安全な状態で保存するための台座を作成しました



これぞ縄文の超絶技巧！特別展「縄文の編み／組みの探究」開催！

開催期間：令和6年7月13日（土）～9月8日（日）

是川縄文館では、大学などの研究機関と共同研究を行い、その成果を展示や刊行物として公開しています。第4期となる令和4～6年度に植物考古学専門の佐々木由香氏と行った今回の共同研究では、植物学や文化財科学、考古学などの様々な分野から素材や技法などの縄文の編み組みを探究しました。

特別展では、共同研究の成果をもとに、中居遺跡の籃胎漆器や繊維・編組製品の分析による素材や製作技法からみえた縄文時代の植物利用について、重要文化財24点、復元かご12点を含む95点を展示して紹介する縄文の編組に特化した国内初の催事となりました

展示は、①縄文のくらしのなかの編組、②技術知のコラボレーション～籃胎漆器の成り立ちと展開、③編組からみた植物資源管理、④いまに残る編組の記憶の4章で構成しました。

会期中は、佐々木由香氏による講演会を開催し、様々な視点から考古資料のかごを読み解く新たな研究の面白さを伝える機会となりました。（落合 美怜）



会場の様子



修理した痕跡のある籃胎漆器
（一戸町山井遺跡）



籃胎漆器かご復元製作品
（原資料：中居遺跡、製作：柴田恵）

がっしょう ど ぐう

合掌土偶国宝指定15周年記念「合掌土偶ができたころ」開催！

開催期間：令和6年10月5日（土）～11月24日（日）

2024年は、合掌土偶が国宝となってから15周年を迎える節目の年です。是川縄文館では、これを記念して本展を開催し、重要文化財47点を含む260点の優品を展示しました。

本展は①合掌土偶の発見、②風張ムラができるまで、③風張ムラのくらし、④徹底解剖！合掌土偶のヒミツの4つの内容で構成し、合掌土偶そのものについてだけでなく、作られたムラや作った人びとの暮らしについても紹介しました。展示室内には、合掌土偶が出土した^{かざはり}竪穴建物跡の実寸大の床面表示のほか、合掌土偶と風張（1）遺跡関連の新聞記事のまとめや触れる合掌土偶、合掌土偶のつくりを解説する映像資料なども設置し、合掌土偶についてより深く知ってもらえる内容としました。

また会期中には、ギャラリートークや考古学講座のほか「縄文しおり作り」、「縄文プラ板ストラップ作り」などの体験イベントも開催し、たくさんのお客様にご参加いただきました。（佐藤 ちひろ）



会場の様子



合掌土偶が出土した竪穴建物跡の床面表示

史跡^{これかわ}是川石器時代遺跡の整備 — 整備工事 —

八戸市では、是川石器時代遺跡を生涯学習や観光の拠点、憩い^{いこ}の場として活用していく「是川縄文の里」の整備を進めています。令和元年度から第1期整備として、中居遺跡^{なか い}を対象に史跡内の建物撤去工事を進めてきました。

令和6年度は、いよいよ中居遺跡南側の地形造成工事に着手しました。中居遺跡を流れる沢では、漆器や木製品など、たくさんの植物質遺物がみつかった送り場（捨て場）が見つっています。地形造成工事により、現在の地表面から2.5m以上埋まっているこの沢を再現しました。

今後は、令和11年度の工事完了、令和12年度の全面オープンに向け、工事を進めていきます。工事完了までは、イベント時の見学ツアーなどでの限定公開となりますので、機会がありましたらぜひご参加ください。

（船場 昌子）



南工区 令和6年度工事完成状況

1年間を振り返って

是川縄文館の埋蔵文化財グループに配属されて1年が過ぎました。春から秋までは縄文時代の^{まつがさき}松ヶ崎遺跡の発掘調査に行き、冬場は土器の実測や図面の整理など発掘調査報告書の作成に携^{たずさ}わりました。わからないことだらけで学ぶ内容は多かったです。先輩方と作業員の皆さんが飲み込みの遅い私に根気強く教えてくださり楽しく過ごせました。様々な仕事を経験する中で特に印象的だったのは、遺跡の発掘調査の成果を市民の方々に伝える現地説明会と発掘調査報告会です。考古学の専門用語をほぼ使用せずに説明する難しさに苦戦しましたが、熱心にきいてくださる方々をみて、これからは少しでも理解していただけるような内容で伝えたいと思いました。

今後は、学芸員として必要な知識と技術を身につけることと、八戸市の埋蔵文化財についてわかりやすく伝えられるようになることの2つを目標に精進します。

（吉田 仁香）



松ヶ崎遺跡現地説明会のようす（筆者左端）



遺跡調査報告会での発表のようす



令和6年度 発掘調査一覧

	遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	種別／主な時代
市内遺跡発掘調査事業	館平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R6.4.8～10	39.0	集落跡・城館跡／縄文、平安、中世
	古玄中寺遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R6.5.8	16.0	散布地／縄文
	熊野堂遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R6.5.24～27	36.0	集落跡／縄文、奈良、平安
	熊野堂遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R6.5.27・28	19.5	集落跡／縄文、奈良、平安
	法霊林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R6.6.10・11	20.0	集落跡／縄文、奈良、平安
	松ヶ崎遺跡① 松ヶ崎遺跡第22地点	試掘調査	太陽光発電 設備設置	R6.7.16～19	320	集落跡・貝塚／縄文、奈良、平安
	館遺跡① 館遺跡第1地点	試掘調査	資材置場造成	R6.7.22～26	428	散布地／平安
	櫛引遺跡①	試掘調査	共同墓地造成	R6.8.1	47.0	集落跡・城館跡／ 縄文、奈良、平安、中世、近世
	櫛引遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R6.8.2	10.0	集落跡・城館跡／ 縄文、奈良、平安、中世、近世
	法霊林遺跡②	試掘調査	事務所建築	R6.8.8・9	6.0	集落跡／縄文、奈良、平安
	沢里山遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R6.8.27	11.0	散布地／縄文、奈良、平安
	松ヶ崎遺跡②／ 松ヶ崎遺跡第23地点	試掘調査／ 本発掘調査	個人住宅建築	R6.9.4／ R6.10.3～11.7	1.0 ／62.0	集落跡・貝塚／縄文、奈良、平安
	市子林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R6.9.11	6.2	集落跡／縄文、古墳、奈良、平安、中世、 近世
	鷹待場遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R6.9.12	9.0	集落跡／縄文、奈良、平安
	松長根遺跡①	試掘調査	寄宿舎建築	R6.9.20	19.0	散布地／縄文
	熊野堂遺跡③	試掘調査	宅地分譲	R6.9.25・26	12.0	集落跡／縄文、奈良、平安
	熊野堂遺跡④／ 熊野堂遺跡第10地点	試掘調査／ 本発掘調査	個人住宅建築	R6.10.8／ R6.11.11～18	12.25 ／56.0	集落跡／縄文、奈良、平安
	熊野堂遺跡⑤	試掘調査	個人住宅建築	R6.10.16	1.25	集落跡／縄文、奈良、平安
	酒美平遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R6.10.25	12.0	集落跡／縄文、飛鳥、奈良、平安
	松ヶ崎遺跡③	試掘調査	太陽光発電 設備設置	R6.11.7・27	19.0	集落跡・貝塚／縄文、奈良、平安
	雷遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R7.2.27	40.5	散布地、集落跡／ 縄文、奈良、平安、近世
	田面木遺跡①	試掘調査	太陽光発電 設備設置	R7.3.4	66.0	散布地、集落跡／ 縄文、弥生、奈良、平安
	酒美平遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R7.3.13	23.75	集落跡／縄文、飛鳥、奈良
	熊野堂遺跡⑥	試掘調査	個人住宅建築	R7.3.13	31.89	集落跡／縄文、奈良、平安
	松ヶ崎遺跡第11地点	本発掘調査	長手作付け	R6.4.15～12.10 R7.3.11～28	2,322	集落跡・貝塚／縄文、奈良、平安
	中居遺跡	現状変更 判断調査	現状変更判断 (電柱移設・新設)	R6.7.2・3	6.3	集落跡(史跡)／縄文
受託事業	八戸城跡第54地点	本発掘調査	道路改良工事	R6.9.9～13	157	集落跡、城館跡／縄文、弥生、古墳、 奈良、平安、近世、近代



《調査事務局》(令和6年度)

八戸市教育委員会
 教 育 長 齋 藤 伸 哉
 教 育 部 長 八 木 田 満 彦
 教育部次長兼教育総務課長

松 橋 広 美
 是川縄文館長 中 村 行 宏
 副 館 長 間 砂 織
 《埋蔵文化財グループ》

副参事(埋蔵文化財 GL)

杉 山 陽 亮
 主査兼学芸員 横 山 寛 剛
 主事兼学芸員 上ノ山 拓 己
 主事兼学芸員 宇 庭 瑞 穂
 主事兼学芸員 山 田 貴 博
 主事兼学芸員 吉 田 仁 香
 発掘専門員 小 笠 原 善 範
 発掘専門員 宇 部 則 保
 事 務 員 鈴 木 麻 琴
 事 務 員 川 井 勉
 《縄文の里整備推進グループ》

副参事(縄文の里整備推進 GL)

小 久 保 拓 也
 主 幹 石 塚 昌 範
 主 幹 船 場 昌 子
 主事兼学芸員 落 合 美 怜
 主事兼学芸員 佐 藤 ち ひ ろ
 主事兼学芸員 菊 地 智 恵
 主 事 関 根 柔 和
 主事兼学芸員 澁 谷 侑 奈
 事 務 員 栗 谷 川 恵 美
 事 務 員 安 藤 節 子
 事 務 員 石 橋 由 美

《令和6年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書
 第187集
 八戸北インター第2工業団地
 第188集 八戸城跡XI

掘りday はちのへ 第28号

発行年月日 令和7年6月13日
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
 〒031-0023
 青森県八戸市大字是川字横山1
 TEL 0178 (38) 9511
 E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp
 https://www.korekawa-jomon.jp
 (是川縄文館ホームページ)
 印刷 大東印刷株式会社
 〒039-1103
 青森県八戸市長苗代一丁目1-3
 TEL 0178 (28) 2348
 印刷部数: 1,000部 印刷経費: 一部あたり92.4円

